

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第25号

平成29年11月3日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 醬油 和 男
住所：〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-9-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



北海道初山別村「有明獅子舞有志の会」(平成29年度助成先)の「傘踊」

平成三十年度 「地域の伝統文化の継承・発展活動」 に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。平成三十年度で二十八回目をむかえます。

これまでに行なった助成は、累計一三七件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

平成三十年度も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付してあります「平成三十年度助成申込要領」をご覧ください。なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

『申込要領の概要』

〔助成対象〕
「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

〔助成の条件〕

平成三十年度(平成三十一年三月まで)に後継者育成を目的とする諸費用(道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など)の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

〔申込手続〕

- 一、提出書類
〔申込書〕(所定用紙)
〔推薦書〕(所定用紙)
〔活動状況がわかる写真〕
〔直近の収支決算書(写)〕

〔参考資料〕等
二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦・捺印を受けてください。

〔手続日程〕

- 一、申込期限
平成三十年一月三十一日(水)
- 二、結果発表
平成三十年三月下旬(予定)

〔選考方法手続〕

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

〔助成金額〕

- 一、民俗芸能への助成は、一件につき七〇万円が限度
- 二、民俗技術への助成は、一件につき四〇万円が限度

〔伝統文化分野選考委員〕

- 委員長 小島美子
(国立歴史民俗博物館名誉教授)
 - 委員 天野武
(儀礼文化学会名誉会員)
 - 委員 田中宣一
(成城大学名誉教授)
 - 委員 田村善次郎
(武蔵野美術大学名誉教授)
 - 委員 西角井正大
(国立劇場おきなわ運営財団理事)
 - 委員 星野紘
(独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムディレクター)
 - 委員 渡辺行信
(当財団評議員)
- 〔敬称略〕

特別寄稿 II

或るメジャーな民俗芸能と

マイナーな民俗芸能の現実

少子高齢・人口減少と若年層流出の地方社会の中で

(国立劇場おきなわ運営財団理事)

西角井 正大

(当財団伝統文化分野選考委員)

西角井正大先生略歴



埼玉県出身。

國學院大學大学院文学研究科

日本文学専攻修士課程修了。

日本芸術文化振興会国立劇場

芸能部長、実践女子大学文学

部教授、國學院大學大学院文

学研究科講師、日本大学大

院藝術学研究科講師を経て、

現在、国立劇場おきなわ運営

財団理事、日本民俗芸能協会

会長。

主な著書に、『大衆芸能資料

集成第8巻』『民俗芸能入門』

『祭礼と風流』『日本の民俗芸

能』『民俗芸能辞典』(共著)、

論文『民俗演劇論』、『神楽の

神々』など多数。

私は、本年は九月(平成二十
九/二〇一七)までに地方に
数回旅して、三度その地の民
俗芸能に接して来た。一度目
は七月七日で、現在は山形県
鶴岡市内になって、現在、市
の中心部と南東約九キロメ
トル強奥の黒川地区に、室町
後期から五百余年の長きに
亘って伝承されているという
「黒川能」である。二度目は八
月十五日の夜、伊豆半島南端
地帯を占める静岡県賀茂郡南
伊豆町妻良(めら)に伝わる
「妻良の盆踊」で、三度目は九
月十日に催された現今は新潟
県柏崎市に属する女谷(おな
だに)地区に、江戸開幕前後と
目されて四百余年の伝承を誇
る「綾子舞」である。
市町村合併後の名で所在地
を言われてもどうも場所が
パット頭に浮かばないことが
多くなった。この後に(一)書
きでちょっと添えるが、市町
村合併は民俗芸能の存続に暗
い影を落としている。
さて、「黒川能」は集落の春
日神社の二月一日と二日の
「王祇祭」で演能されるのが本
式である。旧正月(立春)を
前にして春迎えの神事芸能で

あるが、春日神社の祈年祭・
例大祭・新嘗祭にも奉仕して
いる。その他羽黒山の花祭り
などにも出仕して、毎年
七回くらいは定期的に演じら
れていくわけだが、今文化財
としての民俗芸能の保存振興
に携る行政の担当者たちの集
まりで、法的には任意団体で
ある「全国民俗芸能保存振興
市町村連盟」(現会長は東京都
板橋区長坂本健/通称は「全
民連」)事務局は板橋区教委生
涯学習課/市町村合併で加
盟自治体が減少して財政に暗
い影が落ち始めて(二)の総
会が毎年持ち回りで行われ
る開催市町村の民俗芸能を鑑
賞するのが慣例となつて、今
で、今回の第四十一回平成
二十九年鶴岡総会では「黒
川能」が披露されたわけであ
る。場所は二月二日の王祇祭
と同じく春日神社の拝殿の能
舞台で、能一番(狸々)・狂
言一番(節分)が演じられ
た。しかし、保持する番組は
能五四番、狂言五〇番。能
面二五〇点、能装束五〇〇点
余という。史的には能・狂言
全体では二〇〇に能・狂言
は能二五〇番ほど、狂言二〇
〇番ほどだから「黒川能」
の豪勢さが分かる。昭和五十
一年に国指定の重要無形民俗
文化財の制度が出来ると、早
速に指定を受けると、つま
りスピードメジャーとも言
べき民俗芸能なのである。境
内には以前から伝習館があつ
たが、隣接する外境内には展
示ホール・多目的ホール・研
修室・視聴覚室など設備の
整った立派な「王祇会館」が
建っているといった具合で、

民俗芸能を超える雄の地位を
誇っている。能役者は黒川地
区の農民を主体とする春日神
社の氏子で、二四〇戸ほどあ
るが、能役者は一五〇人ほど。
上座と下座があつて競つてい
るわけだが、目下のところ少
子高齢化に曝されて伝承が危
惧されているという話は聞か
されなかった。
二
(一)実は本稿は「黒川能」の
保存振興そして伝承を語るの
が狙いではない。寧ろ南伊豆の
「妻良の盆踊」と柏崎女谷の
「綾子舞」の現状を語るのが目
的である。「妻良の盆踊」は知
る人として、見たことがある人
とて少ないベリーマイナーな
存在の民俗芸能で、片や「綾子
舞」は民俗芸能関係者ばかり
でなく、日本芸能史研究家や
日本の舞踊家などもよく知ると
ころの「黒川能」の知名度に
負けず劣らざるメジャーな存
在の民俗芸能である。今この二
つの伝承形態を比較考察して
みたいと思う。まず「妻良の盆
踊」から見ていこう。
「妻良の盆踊」については、
私が会長を仰せ付けられてい
る「日本民俗芸能協会」の事業
である。この協会はプロの日本
舞踊家・邦楽家、洋舞家、民俗
芸能・民俗音楽研究者などを
会員として昭和四十六年(一
九七二)に発足した。現在の会
員は七〇名弱。協会員は概ね
芸術選奨文部大臣賞を初め文
化庁芸術祭(かつては文部省)
の受賞歴のある実力者たちで、
「公益財団法人 日本芸能実演
家団体協議会」の傘下にある。
前回の東京オリンピック(昭
和三十九)の前後ころに、外国
の国立民族舞踊団が時々来日
公演をしていたので、それに

刺戟を受けたのかもしれない
が、敗戦の後遺症に悩み苦し
む日本国を諸外国に正しく
理解してもらおうと、全国に
豊富に散在する民俗芸能や高
レベルの芸術芸能を舞踊団
の設立を念頭に、日本民俗芸
能研究の泰斗として後に文化
功労者に選ばれた本田安次早
稲田大学文学部教授(明治三
十六/平成十三/一九〇六/二
〇〇一)の肝いりで創立され
たものである。この愛国的目的
を達成するためには、個々の
民俗芸能伝承者を集めるわけ
にはいかないから、プロの日本
の舞踊家や邦楽家に、先ずは
現地の民俗芸能を出来る限り
忠実に習得してもらおうことが
不可欠だったので、習得事業
が始められたのである。結局国
立民族舞踊団を産むことが出
来なかつたが、習得事業は四
六年経った現在でも継続的に
実施されて、毎年講習会
を開いて協会員が共有してい
るわけだが、今年「妻良の盆
踊」の習得を目標に掲げて八
月十五日に林千永・花柳衛
菊・清水美輝と私の四人で出
掛けた。
伊豆半島も下田から南伊豆
町や西伊豆町、そして松崎町
までの駿河湾側の地域は、
元々海路地帯で、海上交通が
消えた今日、陸路では大変に
不便な土地柄となつてしまつ
ている。そのためか「妻良の
盆踊」に関する文献や情報
は極めて少なく、掘り出し物を
探るような気持ちで、数年前
からターゲットに選んでいた
のである。昨年、花柳園喜輔・
清水美輝が下見に訪れていた
が、秘境ともいふべき壁に突
き当たっていた。それは今回

も変わらなかつた。つまり我々は招かれざる押掛けの所者に過ぎないのである。教えてもらうべく何度となく連絡し交渉を重ねても言を左右されて埒が開かない。別は決して意地悪しているのではな



[南伊豆町 妻良の盆踊り]

踊り場は砂浜の一角で、樽が立っていた。先ずはテントの本部に行つて保存会長さんに名刺とご祝儀を渡した。会話もならず反応はいま一つ。踊り場を取り巻く提灯が電球入りであるのは、往昔のままに違いない。お囃子は三味線・笛・締太鼓・太鼓である。明らか

土俵入一の取手宿の安孫子屋の舞台セットそのままであることに驚いた。その昔は遊女たちが三味を弾き踊つたのだらうと想像を逞しくした。



[妻良湊の旧風待船宿]

い踊りには他に見たことがない珍らしい手振りがあった。どこかに同じような手振りがあったかと思ひを廻らしてみたいが、思い当らない。余所では失われた振りと思うと、今でこそマイナーな「妻良の盆踊り」が愛おしくなつた。風待湊の遺風を残し伝える貴重な盆踊りであつた。ひと歌終つて囃子に掛かると、櫓の欄干に立つて四本柱に持たれ掛かつていた若者たちが柱を揺す

くしていた。通例は九月十五日の黒姫神社の祭りに奉納されるのだが、今年は九月十日に「綾子舞会館」の広場に特設舞台を組んで大々的に現地公開するからと声を掛けられたので、国立劇場にも出演しただいており（昭和四十六）、日本民族芸能協会も習得でお世話になつてゐるし、何を措いてもと出掛けた。



[綾子舞ポスター]



[綾子舞に訪れた人々の車列]

多くの人と車で埋まつて、たわけだが、柏崎駅からのバスの中で運転手が初めてののはと問うと数人が手を挙げて、大阪からなどと答えていた。「妻良の盆踊」とは大違いだ。やはり「黒川能」と同じ

く第一次国指定重要無形民俗文化財だから知名度が高い。伝承地は柏崎市街から信州の黒姫山（二〇五四メートル）に向かつて南に一六キロメートルほど、小高形山々に囲まれた半正三角形定規状の微小盆地の女谷（おなだに）地区で、そのうちの下野（しもの）（三人舞）と高原田（たかんだ）（二人舞）の二集落が伝承している。田園は荒れていながつたが、かつて三〇〇〇人近くという人口が一〇〇〇人を切つたというから徒事でない。

「綾子舞」は少女の「女舞踊」（二二曲）と、男子の「狂言」（二八番）と、「囃子舞」（二二曲）の三種の芸能からなつてゐるが、以前は地元だけでなく近郊の家々を回つたりしていた。かつては折居（おりい）などにもあつて、文化行政また天保年間には江戸浅草などで勧進興行をしてゐる。明治中ごろには、永正六年（一五〇九）に滅ぼされ逃げのびて来た上杉家の奥方の名に託けた由来譚が語られてゐるが、近年で識者の目に止めたのは、昭和十一年の柏崎の民俗芸能研究家 桑山太市氏、昭和十六年六月の藤田徳太郎氏ほか、戦後は昭和二十五年八月の本田安次氏である。私は昭和三十一年に氏のお供をしてゐる。氏以後、郡司正勝氏なども加わつて「綾子舞」研究は進んだ。名称的に、また踊りの年齢から、「多聞院日記」の天正十年（一五八二）の加賀国という八歳と十一歳の童女の「ヤヤ子おどり」に結び付ける説が有力で、「女歌舞伎踊」の前哨と見られてゐるわけだが、「綾子舞」の衣装・扮装や舞い振り、

舞構成の仕方、そして舞い手の数に至るまで、「阿国かぶき草子」から飛び出てきたように驚くほどそっくりなのである。曲目も一〇曲も同じであるし、三味線が曲も同じでないなど女歌舞伎の生き証人なのである。これで学会や世間の注目を浴びないわけがない。しかし、その割には「囃子舞」や「狂言」に注意が向けられていない。腰を落として左右の脚を大きく交差させながら動き回る演技法は、現行の伝統芸能に遺されてゐない。中近世の移り変わり時期の芸風を知る貴重な存在である。他方その扇の使い方には能狂言に通じるものがある。

日本の伝統芸能は、扇など採り物を持つのが特徴で、洋舞は素手が原則である。それが故に日本の舞踊は脚運びが多が少なく、洋舞は脚法が扇の点ではあつた。綾子舞では扇の点が三十四通りもあり、その凌駕してゐる。やはりスパーメジャーな存在である。今日、綾子舞を舞う日本舞踊家は百数十人いるといわれ、ており、ニューイックでも見ることが出来るというの（須田弘宗前保存振興会長談）、伝承地の人口激減のため現地では賄いきれず、校区の小中学校で伝承学習として取り入れられてゐる。今回はこの生徒たちが演じた。市民向けの養成講座も開かれてゐる。次は十一月十二日の市文化会館アルフォーレ公演である。同名の香川県一まんの町の雨乞いの踊りを招いての共演である。このように公開を続ける限り明日への展望は明るいと思ふ。

Ⅱ現地取材レポートⅡ 神奈川県横須賀市野比地区 「野比中村虎踊り保存会」様を訪ねて

横須賀市野比地区を訪ねて

今回は、神奈川県三浦半島にある横須賀市北下浦の一野比中村虎踊り保存会様をお訪ねしました。

「野比中村虎踊り保存会」様は、安政三年（一八五六）から虎踊りを伝承し、平成十六年二月に文化庁より「国選択無形民俗文化財」として選択されました。今年度当財団から大太鼓の張替費用等の一部に三十三万円を助成させていただきました。



〔中村町内会の山車〕

この度、当財団事務局は、五月二十九日に開催された「助成金目録贈呈式」から始まり、七月の白髭神社祭礼に向けた小中学生に対するお囃子の指導会、八月二十七日に開催された「北下浦ふるさと祭り」での虎踊り披露といった一連の行事を取りかかせていただきました。取材時には、根岸和夫会長はじめ、統括責任者の出口健司様、事務局の菱沼正様など保存会の幹部の皆さまにはお世話になりました。ありがとうございます。北下浦（きたしたうら）とは、

「野比中村虎踊り保存会」様が伝承する虎踊りは、近松門左衛門の浄瑠璃「国性爺合戦」の一部からで、「和藤内」の虎退治（強者・豪傑）等に脚色し、「唐人踊り（かんかん踊り）」を取り入れ純粋娯楽として民衆に親しまれています。

内容は、「和藤内」の口上で始まり、「大将」と「唐子」が手踊りをしながら登場し、「和藤内」と「大将」のやりとりがあり、「唐子」の唐人踊り（かんかん踊り）につながります。

「かんかん踊り」が終わると「和藤内」が「唐子」を追い払い、虎が登場し「虎踊り」が始まります。踊りは、笛・太鼓の「虎囃子」に合わせて踊り、その後芸を演じます。



〔白髭神社〕

虎踊りは稀少な芸能

「神奈川県民俗芸能誌」に、虎踊りは稀少の芸能で、神奈川県・岩手・宮城県に数か所現存し、熊本・長崎・広島・山梨・静岡の各県に僅かに残ると記されています。しかし、芸態は、獅子舞と思われるものも多いようです。獅子舞には、悪魔払いの呪術性がありますが、虎踊りには指摘されていません。

下田市伊勢町の古文書には、虎踊りを静岡県南伊豆町小稲と浦賀浜町に伝えると書かれています。その真偽はわかりませんが、（いずれも旧町名）虎に入る者は二人。二人の心意気が合わなければ危険な芸の連続です。虎芸には「てつけ」「虎返し」「玉ころがし」「しらみどり」「谷のぞき」「一本杉」「しつちよい」「笹のぼり」「ころがり」の九種類があります。「北下浦ふるさと祭り」ではその中から、「しつちよい」「谷のぞき」「一本杉」の三種類の芸が披露されました。ここでは紹介します。

○「しつちよい」・・・後者が前者を仰向きに肩に乗せ、虎が後足で立ち上がる姿です。



〔しつちよい〕

○「谷のぞき」・・・前者は中腰。虎頭を両手で持ち、低く下げる。後者は前者の太股に足をかけ、立ち上がる。そのまま前へ歩けば虎が尻をあげながら谷底を覗く姿です。



〔谷のぞき〕

○「一本杉」・・・前者は左手に虎頭を持ち、右手は後者のファンドシを腹のところで握り、肩と肩を合わせて後者を逆立ちさせ、虎の逆立ち姿をつくりまします。次に「虎踊り」の登場人物などを紹介いたします。



〔和藤内の虎退治〕

○和藤内・・・「和藤内」は、虎踊りの加役として重要な存在です。成人男子がこれにあたり、顔を紅隈で描き、鉢巻、たすきを穿きます。縫取衣装、紋付の着物でどんす風の前掛けをつけまします。動作は歌舞伎風の立ち振舞いを行います。

○大将・・・大将は年長男子があたります。唐人ひげをつけ、大将風の服装を使用しています。大将は軍配を持ちます。そのうえ、面に日、月、七曜星などを描き、漆塗りをほどこしてあります。

○唐子・・・唐子は十名、女兒が多いうです。支那服風なものを用います。襟の回りにほだれかけに似た飾りがあり、服の下部に二、三枚の短いひだのついたものを使用します。

○囃子方・・・大太鼓、つけ太鼓を使用し、笹および鉦を用います。「祭りばやし」「下田ばやし」「虎ばやし」などを奏でます。「下田ばやし」終了後、笛の合図で虎が舞台に登場し、「虎ばやし」に合わせて虎芸を行います。虎芸の際は、笛と太鼓だけを

使用します。

また、虎踊りを演じる舞台の「虎台」は、間口九尺、奥行二間半、前方に五段の昇り段があり、唐子はここから舞台にあがります。舞台は高さ四尺です。

続いて、野比中村の「虎踊り」で披露される唄と踊りですが、全部で六種類あります。紙面の都合上、ここでは二種類をご紹介します。

○かんかんの
一かんかんのう、きゅうのうです
きゅうはきゅうです、
さんしよならえ
さあいほう、ひいかんさん
いっぺんたいたい、さあはんう
めんごがおかおで、
ひいかんさん
ハウトテツルツ、
ハウトテツルツ

二かんとこのきまひです
はちがつです、さしみならえ
ざわらあんかけさ
ひらめたいたい、やまぐろ
めじかにこはだで、しなばだこ
ハウトテツルツ、
ハウトテツルツ

○高い山
一高い山から、たにそこみれば
うりや、なすびのはなざかり
ヤレコラドッコイ、
ヤレコラドッコイ
ヨイヤネ、チツツン、チツツン
ニちようちや、とんぼや、
さきざりぢ
やまで、おやまでさえずるは
まつむし、すずむしくつむし
アラ、オッチョココチヨイ
ノチヨイ ケエシテ、
オッチョココチヨイノチヨイ

以上のとおり、歌詞には、当時の流行の俗語を取り入れています。「かんとこの」は替え歌のようであり、「蝶々やトンボ」は広く盆踊り唄に取り込まれています。

踊りは手振りや足の運びも簡単なものですが、歌詞によって踊り方は異なっているようです。

保存会の活動について

「野比中村虎踊り保存会」様の事務局は中村町内会に置かれています。したがって、「中村町内会 虎踊り保存会」が正式名称になります。保存会規定の前文には、「中村町内会 虎踊り保存会」は、地域の歴史的な民族伝統芸能である「虎踊り」を保存・継承し、地域社会の活性化と地域文化の推進に寄与し、もって町内会団体としてその役割を果たす。それがため、保存会メンバーは、先代・諸先輩に依って育まれた「伝統芸能」を、一人ひとり真摯に取り組み、誇りと自負を旨とし、練習（技量向上）を定期的に行い、永く後世に「虎踊り」を伝え継ぐと共に、地域振興のために協力する。」と謳われています。

保存会の「組織」も、会長、統括責任者、事務局はもとより、虎踊り指導責任者、囃子指導責任者、唐人踊り責任者などその役割が明確に規定されており、まさに町内会と表裏一体の組織構成となっています。さらに規定の中には、保存会の「活動」も定められています。

- (一) 隔年に白髭神社下広場で「虎踊り」の披露
- (二) 隔年に野比中学生徒の文化祭「虎踊り」の指導・協力
- (三) 町内行事「高齢者と若人の集い」での「虎踊り」披露
- (四) 北下浦ふるさと祭りでの「虎踊り」披露
- (五) 公共機関からの打診に応じ協議後回答（極力参加・虎踊り披露）
- (六) (一)～(五)実施のための「虎踊り」の練習

(七) その他目的に応じて事前会合・活動等と記されています。

このように、「野比中村虎踊り保存会」様は、保存会の趣旨・目的や組織・活動内容等を規定化することにより、伝統文化の伝承を持続可能なものに行っています。

後継者育成に向けた熱き思い

今回の一連の取材を通じ、保存会の幹部の方に「ずばり今の一番の課題は何ですか？」と質問したところ異口同音に、「後継者育成です」との答えが返ってきました。

「後継者の育成」は、これまで当財団から助成を受けた団体のある意味共通の課題でもあります。「野比中村虎踊り保存会」様は、前掲した活動内容の一部にもあるように、野比中学生徒に対する「虎踊り」の伝承指導や、白髭神社の祭礼前に、小学生向けのお囃子の普及継承活動を行っています。

実際、小学生に対し、お囃子指導を行っている現場に駆けつけてみると、会場である「中村町内会館」は、すごい熱気に包まれていました。指導する側の大人も指導を受ける小学生もまさに真剣そのもの。加えて、そこには子供たちが少しも主体的に「練習」と向き合えるような「ある仕掛け」もありました。



【お囃子の練習風景】

「目指せ！太鼓マスター」と銘打つ一種のスタンプカード。①から⑯までのスタンプラリーになっていきます。子供たちは練習に参加し、上達するごとに「すごろく」のようにシールを貼り付け、前進することが出来ます。ステージ五に到達すれば本番の祭礼で、太鼓をたたくことが出来る設定もあり、当然子供たちの眼も輝きます。

事務局に「その効果はいかがですか？」とお尋ねしたところ、満面の笑みで「想像以上の効果があります」との回答。このようになり組みの中に、「野比中村虎踊り保存会」様の「虎踊り」の担い手を育成するための戦略、「まずはその裾野を広げることが大切」といった後継者育成に対する「熱き思い」を感じ取る事ができました。

現地取材を終えて

今回の取材は、当財団事務局が所在する東京都の隣県であったこともあり、「贈呈式」から「北下浦ふるさと祭り」までの間、合計四回の訪問をさせていただくことになりました。日頃の活動風景を肌感覚で感じ取りました。中村町内会の数多くの皆さまにご協力をいただき、この場をお借りしまして感謝申し上げます。



【新しく張替えられた太鼓】

伝統民族芸能の継承は、活動資金面や後継者育成において多くの団体がお苦勞されているものと拝察します。

私自身も、「野比中村虎踊り保存会」様の活動を取材・体感することで、当財団が果たすべき「地域の伝統文化の保存・維持・後継者育成に対する助成事業」の使命を再認識することができ、身の引き締まる思いです。

今後とも幅広い団体・個人の皆さまに有益な助成事業を展開してまいります。ご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申しあげます。



【保存会の皆さま】

結びに、「野比中村虎踊り保存会」様の今後のますますのご発展と「中村町内会」の皆さまのご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

本レポートの作成にあたり、横須賀市教育委員会 生涯学習課 文化財係主任の川本真由美様に資料提供等、多大なご協力をいただきました。ありがとうございます。

（財団事務局長 壁谷章可）

- ◆ かながわの民俗芸能二十一号
- ◆ 北下浦郷土史
- ◆ 「中村町内会 虎踊り保存会」規定

寄稿

不動院野の神楽、その伝統と継承

埼玉県春日部市
東不動院野神楽保存会

監事 清水 京武
(平成二十九年年度助成先)

◇発祥と歴史

この地に神楽が伝承したのは、埼玉県教育委員会が編纂した資料によると、今から三百年前の江戸中期、正徳年間(一七一〇～一七一五)の頃。この一帯に疫病が流行り、その平癒と五穀豊穡を願って、茨城県稲敷郡桜川村阿波(あば)の大杉神社より御分霊を迎え、当地に祀った。その際、大杉明神への奉納のため神楽を習ったのが始まりとのことだが、まだ確証までには至らないらしい。

また現在、東不動院野保存会に残っている古い道具箱の箱書きに「武蔵国葛飾郡幸手領不動院村邑東組中 嘉永六年丑九月八日 造之」と書かれている。嘉永六年(一八五三)は江戸末期、まさに黒船が来航した年だが、少なくともその頃には神楽が根付いていたことが伺える。

加えて、不動院野の神楽の演目にある、芝居仕立ての様式は、明治に入ってから生まれたという説が有力。この頃、江戸(東京)や武蔵(埼玉)、相模(神奈川県)の里神楽が、歌舞伎を模倣した地芝居を、面をかぶって演ずるようになった。いわゆる「江戸里神楽」と呼ばれる形式だ。現在の演目にも、派手な衣装や刀を使つての立ち回り、見得に



[春の例大祭]

似た所作など、いわば歌舞伎のエンターテイメント性に似た雰囲気、色濃く残っている。

とつは、娯楽的側面の強い面芝居である。

舞いには「大黒天と獅子舞」「天狐」「三番叟」「白三番(翁)」「巫女舞(般若舞)」がある。面芝居には「大江山(酒呑童子)」「地藏様」「めついたら」「種蒔き」「おかめ」があるが、このうち「おかめ」を除く演目はすべて台詞がつく。また、その台詞は、地元の方言や古い言い回し、表現をそのまま残しているのが特徴だ。

また、舞いや面芝居とともに「お囃子」も重要な神楽演目である。基本構成は笛、長胴太鼓、大拍子あるいは絞め太鼓、そして鉦。舞いでは絶えずお囃子が演奏され、面芝居では演者の入りと出、そして立ち回りの場面などにお囃子が入る。



[市主催神楽公演 (お囃子)]

◇現在の活動

活動としては、地元の春の例大祭が年間でもっとも大事な行事となる。四月半ばの日曜日、午前九時に、地区集会所の敷地内にある大杉神社で、神主が祝詞(のりと)を上げ、その後、神輿が同地区の五つの組を巡る。その行列に神楽の囃子連も加わり、田植えを待つ田園地帯を練り歩

く。その光景は、江戸や明治の時代と変わらないのではと思うほど、のどかである。

また、各組の辻で行う「辻斬り」で、獅子舞を披露するのも神楽の役目。その後、各組から飲食の接待を受けるのも恒例となっている。

午後は集会場の敷地内に舞台を設置し、神楽の奉納および公演を行う。内容は、お囃子に奉納舞い、そして面芝居の三本立て。客席はゴザにテーブル。舞台の周囲にある散り際の桜が、毎年、この神楽奉納に彩りを添えている。その他、春日部市の夏祭りでは、山車の上で神楽を披露しながらのパレード参加。また、市の教育委員会の尽力によって、市内の他の神楽保存会や獅子舞連とともに市民会館等での公演も定期的に開催している。



[市夏祭り (山車に乗っての神楽)]

◇課題と今後の方向性

今後の課題を上げるならば、やはり「継承」であり「後継者不足」だろう。その対策として、今すべきことは三つあると考えている。

まず、後継者の育成。東不動院野地区に限らず、関心を持ってくれる小中学生に教えていく。

現在、地元の小学校の放課後を利用して、神楽教室を年間を通じて行っている(月二回程度)が、そこに参加する小学生のうち、数名が普段の稽古(毎週火曜・土曜の夜七時から)にも通っている。



[地元小学校での神楽教室]

もうひとつが、芸能の伝承。今まで口伝で継承されてきたお囃子や舞いについて、動画や画像、文書で可能な限り詳しく保存し、資料としていく。

そして最後に衣装や道具の保存管理。衣装は手作りのものが多く、その独特の形状は市販では手に入らない。三十枚近い面や獅子頭は、そのほとんどが昭和初期に買い揃えたものだが、その味わい、表情は現代のものにはない風情がある。ともに修理、補強をしながら、大事に保存しなくてはならない。

昨年、締め太鼓の革を張り替えた。その際、胴体の裏物きから大正時代に浅草の職人に作らせたものだとわかった。有形の道具も無形の芸能も、その土地で育くまれ、代々伝えられる。わずかでも、その継承の一端を担えることが会員一人一人の喜びにつながっている。

寄稿

賀茂神社長床神事の継承について

香川県三豊市仁尾町
賀茂神社長床神事保存会
会長 倉本 一利
(平成二十九年度助成先)

◇長床神事の由来と背景

香川県の仁尾町は、瀬戸内海燧灘(ひうちなだ)の東に位置し、沖合五〇〇メートルほどにある大島・小島の二島を天与の風除けとして天然の良港を形成しています。

平安時代の応徳元年(一〇〇八四)に、時の白河天皇の勅許を得て、京都賀茂両社の祀官・原齊木朝臣源吉高(はらさいき)が、あそみなどもよしたか)が、御分霊を大島島に奉斎し、六年後の寛治四年(一〇九〇)に、京都賀茂両社の神領として仁尾が御厨の一つに定められると、仁尾の人々は関料・津料御免の神人として海上交通の特権を与えられ、大正期に自動車による輸送にとって代わられるまで海運によって栄えました。

鎌倉・室町と武家が台頭してきた南北朝時代、足利將軍家の内乱に始まる「観応の擾乱(かんのうのじょうらん)」において、足利尊氏の武將・細川頼氏のもと、仁尾の神人が活躍し、その戦功によって観応二年(二三五)に大島島から現在地に賀茂神社が遷宮されました。後に四国管領・細川頼元によって明徳二年(一三九一)に別当神宮寺が境内に創建されると、当賀茂神社の秋祭りには、毎年細川家の使者が参向するよ

うになり、その使者を十万石の格式(と云われる)をもって供祭人(ぐさいにん)・氏人が丁寧に歓迎したその慣行が、今に残る長床神事の始まりです。



長床神事 [謡曲]

◇継承してきた行事と特色

長床神事は秋祭りとして一体をなしており、古くは旧暦の九月十五日に行われていましたが、現在は十月第二日曜日の秋祭りの日に行われています。

町内巡幸に出るご神霊を「頭人」「年寄」たちはお供をせずにお見送り(オマエダシと言います)したのち、長床棟において床の間を背にする細川管領家の二人の使者(現在は年寄が代わりを務める)を、年寄と頭人が左右に座り謡曲が謡われる中、「舞酌」と呼ばれる六人の子供たちが、長柄鉾子を持ち三度回りながら酌をする。

用いる料理は古文書から再現したご神法料理で、神事は「長髪斗(ながのし)納め」「初献の儀」

「二献の儀」「三献の儀」「納めの盃」と古式にのっとり続きます。



長床神事 [舞酌]

やがてご神霊が巡幸からお帰りになると、ハナデンと呼ばれる天狗役が「お迎えに出るよう」と伝えに來ますが、「まだまだもてなしが足りない」と言つて天狗に酒を振るまい返します。これを何度か繰り返したのち「チナタビハンの使い」と言います。やっぱ年寄と頭人・舞酌が腰を上げ、一の鳥居まで迎えに出ます。迎えに出ることで長床神事が終わります。



太鼓台 [チヨウサともいう] 奉納

◇継承活動の歴史

「年寄」は定員を十人と定め、宮司と共に祭祀を司る役として、古来より五苗と呼ばれる特定の姓「塩田」「河田」「鴨田」「吉田」「倉本」の者から選ばれ、頭人もまた五苗から毎年別人五人が選ばれ、舞酌は「頭人」の子弟が担ってききました。五苗は当地へ賀茂神社が勧請されて以来続く、五代・原正岡宮司のご先祖と共に、京都から来て定住した鴨の氏子五家に由来します。(原家古文書)

こうした父から子へ、子から孫へ又は縁戚といった血縁・地縁を頼りに世代交代を繰り返しながら神事は継承されてきました。慣行として幼少期に舞酌を、壮年期に頭人を、のちに社警をして年寄または総代となりま

す。近年は該当戸数の減少や個人の意識の変化のため、年寄・頭人そして舞酌もまた少子化のため、担い手が少なくなつてきました。そのため、すべての氏子から「頭人」を募るよう二〇〇二年に門戸を開き改めましたが、拘束時間の長さ(九日間)と祭礼費用の負担などから、なお後継者不足が続いています。現在の総

代、年寄、社警は五苗で構成していますが、今後も五苗を維持するかは大きな課題だと考えています。

◇後継承育成の取り組み

お祭りの獅子や太鼓台といった華やかさには興味を持たず、人々にはあまり興味を示さず、なかには神事の内容を知らない人もいます。五苗のみで継承してきた弊害と思い、次代を担う人たちへの情報発信の必要性を強く感じており、対策として次の様にしました。

※掲示板の設置(今迄無かった) 二〇一六年には境内に掲示板を設置して、年間行事の一覧を常時掲載し、行事を行う都度詳細を張り出しています。
※インターネットの利用 二〇一七年四月から、当賀茂神社のフェイスブックとホームページを立ち上げ、沿革や由来、神事や伝統行事の内容・意味などを掲載し、ネットを通じて賀茂神社の歴史と神社が果たした町への役割など、伝統を継承するという意識の醸成を図りたい、と考えました。内容については未だ十分とは言えず徐々に充実させていきます。

※出前講座 また、小中学校に出向いて「我が町の歴史」といった話をしたり、子供のうちから関心を育てたい、そして希望すれば袴を着ての模擬神事を体験してもらおう。また古くなった神具や衣装を順次更新して、衣装が汚いと若い世代から神社への奉仕を忌避されることの無いようにしたい。

今、私たちは学校でキチンとした話ができるように、我が町の歴史と合わせて日本史を学びなおしています。

寄稿

新里の豊年まつりと 民俗伝統芸能について

沖縄県宮古島市平良
新里民俗芸能保存会

会長 上里 雅章

(平成二十九年助成先)

◇はじめに

新里は宮古島の旧上野村字新里の小さな集落である。新里では古くから伝統芸能が伝承されて来っており、中でも重要な獅子舞の獅子頭が四〇年近い年月で経年劣化が激しく、迫力ある動作に何時まで耐えられるか懸念されていました。

更新・新調するには製作費高騰による費用捻出、材料のドイツの原木がドイツヒメコバチ被害のまん延等で入手困難、彫刻士の問題等多くの課題があり、容易くクリアできそうにありませんでした。

今回、平成二十九年度「地域の伝統文化保存維持費用助成」を受け、費用の点、獅子頭制作に適したドイツの原木の確保、彫刻士（宮古島で唯一）の快諾を得て、新しく制作する運びとなりました。

◇豊年まつりの概要

新里の豊年まつりは、集落の守護神（司屋御嶽）に五穀豊穡を感謝し、集落の発展・子孫繁栄を祈願する行事である。新里集

落は、一四〜一八世紀ごろまで、海岸沿いにあった元島に集落を築き、南方貿易の拠点として栄えてきたと伝えられています。

一七七一年、今から二五〇年ほど前、明和の大津波で集落が流され、生き残った住民は、高い丘の現在地に移り住み、疲弊した集落には、他地域から移住してきた人々も加わり、多種の文化が混じり合う集落が形成された。

一つの自治集団としてのまとまりを形成するため、守り神としての「司屋御嶽」を中心に信仰集団を築き、五穀豊穡に感謝し、集落の発展と子孫繁栄を祈るために始めたのが豊年まつりと伝えられています。

まつりは、司による御願の後、獅子舞、男の棒振り、男のザヤ踊り、女の引き踊りが奉納され、その後、大座（ウブザー…綱引き会場）で大綱引き、最後は全員で輪になって踊るクイチャー（声を合わせ踊るの意）までが一連の構成となっています。

◇伝承されている民俗芸能

①獅子舞

新里の獅子舞は雌雄一対になっており、勇猛な顔立ちの獅子が雄々しく、荒々しく、猛々しく悪霊を追い払い、座を清めます。力強く激しい動

きに特徴があります。構成は獅子雌雄二頭（二人組の四人）、網羅士二人、鉦鼓二人、太鼓一人、法螺貝四人の一人が基本となっています。



【豊年まつりの獅子舞】

②棒振り

棒振りには男若衆の力強い踊り。元気な気力溢れる演舞で、棒を振り、打ち合い、打ち鳴らす音が厄払いをします。前二人棒、横棒六人、中棒二人で隊列を組み、組織だった演舞で力強く勇壮である。

③ザヤ踊り

中高年男衆の踊り。農作業の様子を振付けた豊作に感謝する踊りである。

④女の引き踊り

クバ（棕櫚の葉）の扇と四つ竹を手に女らしい動きの中で豊年に感謝する踊りです。ゆったりとして、優雅な動きの中に、女性の優しさ、色香漂う踊りで、手に持つクバの葉扇に古の風情がある。

⑤クイチャー

新里のクイチャーは他地域と異なる独自性を持つ、特徴あるクイチャーです。

◇現在の活動状況

現在の保存会活動は、毎月一回の練習日を設定し、演目全般について、技術の向上、基本的動作の正確な習得、古い方言歌謡の正しい発音・発声等、熱の入った練習に取り組んでいます。豊年まつりの一〇日程前から全住民に呼び掛けて、公民館で練習、個々の興味関心を高め、多くの住民のまつり参加への意欲高揚に働きかけています。一方で、年一回の豊年まつりにおける出演・演舞だけでは、伝統芸能への興味関心は高まらない点から、各種イベントへの出演機会を増やし、練習意欲や向上心を刺激、技能向上・伝承活動の高揚に努めています。



【イベントでの獅子舞演舞】



【クイチャー演舞でのイベント出演】

◇後継者の育成と今後の活動

過去には、東京国立劇場出演、全国青年大会郷土芸能の部優秀賞、オーストラリア、ドイツ、ハワイへの招待出演等高い評価のある新里民族芸能であるが、少子高齢化の波、伝統芸能について語り継いでくれる古老の減少、伝統芸能への興味の希薄化と後継者育成等課題も多い。数少ない古老が元気なうちに継承・保存・後継者育成で伝承していく事が喫緊の課題となっています。

新里子供育成会と連携、小学生全員に、夏休みを中心に体験会を設定、練習・指導を行い、慣れ親しむ環境と継承の心の芽生えを図っています。

今回の助成で子供用獅子を制作できた点も大きな励みとなっています。これからも新里民族芸能に誇りを持ち伝承に努めていく所存です。



【子供用獅子を喜ぶ子ども達】

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
		平成5年度助成(35)		平成3年度助成(29)	
徳島県	猿坂獅子組保存会	北海道	ヤイユーカーの森 *	北海道	石崎奴保存会
愛媛県	八幡丸運営委員会	北海道	新十津川町獅子神楽保存会	青森県	厚岸かぐら保存会
高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	青森県	新山権現保存会	青森県	紙渡沢獅子踊保存会
福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *	岩手県	七戸町郷上芸能保存会
長崎県	館浦須古踊り保存会	岩手県	赤沢芸能保存会	岩手県	白浜剣舞保存会
	大島村盆踊振興会	宮城県	宮崎獅子舞保存会	宮城県	とよま囃子保存会
熊本県	中江岩戸神楽保存会 子供神楽部会	秋田県	中野七夕保存会	山形県	今利一郎氏(深山和紙製造) *
大分県	重岡岩戸神楽保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	群馬県	岩島麻保存会 *
宮崎県	村所神楽保存会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄) *	東京都	説経節の会
	佐々木寛治郎氏(手漉き和紙) *	群馬県	大神楽獅子舞保存会	新潟県	秋川歌舞伎保存会
鹿児島県	蓬原熊野神社神舞保存会	埼玉県	明覚郷流鎗馬保存会	新潟県	神谷地域ビデオ収録委員会
沖縄県	伊江村民俗芸能保存会	千葉県	野田津久舞保存会	福井県	越前万歳保存会
	平成7年度助成(43)	神奈川県	大谷芸能保存会	長野県	木曾漆器保存調査会 *
北海道	月浦獅子舞保存会	石川県	能登の揚浜式製塩保存会 *	岐阜県	大井文登保存会
	釧路アイヌ民芸企業組合 *	福井県	花山行事保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
青森県	沼崎念仏鶏舞保存会	岐阜県	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会	奈良県	石打太鼓踊り保存会
岩手県	小梨芸能保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	和歌山	大島水門祭保存会
秋田県	戸沢ささら保存振興会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
	鷹巣町綴子大太鼓上町保存会		二木島祭保存会	広島県	島後久見神楽保持者会
山形県	遊佐のアマハゲ保存会	滋賀県	吉身祭礼保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	兵庫県	福田お幡入れ法伝鼓伝承保存会		金城一國斎後継者池田昭人氏 *
福島県	葛尾三匹獅子保存会	和歌山	土生八幡神社お頭保存会	徳島県	中村園太夫座人形浄瑠璃
栃木県	大沢田太々神楽保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *	福岡県	加布里山笠保存会
千葉県	佐原囃子保存会		中野神楽保存会		新多神相撲保存会
新潟県	片野尾歌舞伎保存会	広島県	八千代神楽団	長崎県	大村龍踊り保存会
富山県	八尾町曳山保存会	山口県	鷺の舞保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会
福井県	糸崎寺佛舞保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会	宮崎県	諸塚神楽保存会
	福谷区大火勢保存会	香川県	中山農村歌舞伎保存会		大人歌舞伎保存会
山梨県	藤木道祖神祭保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		平成4年度助成(34)
長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
岐阜県	高雄歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会		長沼町勇獅子舞保存会
三重県	深野和紙保存会 *	熊本県	上井出神社奉納楽保存会	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
滋賀県	岩熊区雅楽保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ)踊り保存会		上郷伝統工芸研究会 *
大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	宮崎県	村所神楽保存会		伊藤流行山鹿踊保存会
	堺式手織段通技術保存協会 *	鹿児島	東郷町文弥節人形浄瑠璃保存会		鷹生郷土芸能保存会
兵庫県	熊野神社裸祭り保存会		平成6年度助成(40)	宮城県	金津七夕祭保存会
鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	秋田県	大葛金山民俗芸能保存会
島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会		鬼鹿松前神楽保存会		前山郷土芸能保存会
	出雲民芸紙工房 *	青森県	鮫神楽保存会	山形県	押切神楽保存会
岡山県	壬生農村歌舞伎保存会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *	神奈川	民具製作技術保存会 *
広島県	常定神楽継承団体「戸山会」		石橋鑑剣舞保存会	山梨県	下部温泉神楽保存会
山口県	別府岩戸神楽舞保存会	宮城県	夏井大梵天神楽保存会	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
徳島県	犬飼農村舞台保存会	秋田県	塩入神楽保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	秋田県	尾去沢からめ節保存会		一色町能楽保存会
愛媛県	大江山保存会	山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所	兵庫県	三日市オンナイ保存会
高知県	野市町立山神社棒獅子舞保存会	茨城県	柿岡からくり人形保存会		淡河八幡播州音頭踊り保存会
福岡県	平八月祭り保存会	東京都	西川古柳座		池尻神社人形狂言保存会
佐賀県	西塩谷面浮立保存会	富山県	五ヶ種チヨカレ踊り保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
	武雄流鎗馬実行委員会	石川県	柏野じよんがら保存会	鳥取県	日南神楽 神光社
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊り保存会		能登の揚浜式製塩保存会 *	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
熊本県	久連子古代踊り保存会	福井県	だのせ祭り保存会		隠岐いぐり凧保存会 *
大分県	丸山俚楽保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会	広島県	備後かすり学習会 *
宮崎県	今西三段打分太鼓踊り保存会	長野県	日吉御殿様祭り保存会		羽佐竹神楽団後援会
鹿児島	入来麓泡瘡踊り保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会	山口県	鷺の舞保存会
	佐仁八月踊り保存会	三重県	大淀祇園祭保存会	高知県	船戸花取踊り保存会
	中村悦子氏(芙蓉布復元) *	大阪府	貝塚東三吉馬保存会	福岡県	大分獅子保存会
	平成8年度助成(43)	兵庫県	青田神楽保存会	佐賀県	嬉野町今寺面浮立保存会
北海道	留萌岩戸神楽保存会	奈良県	誠語会	長崎県	鷹島町島踊り保存会
	(財)アイヌ民族博物館 *	和歌山	真国御田保存クラブ		萩田浮立保存会
青森県	古懸獅子舞保存会	鳥取県	アトリエ・グリヌ *	大分県	武多都神楽保存会
岩手県	行山流都鳥鹿踊り保存会	島根県	赤塚神楽佐義利保存会	宮崎県	潮嶽神楽保存会
	平組はしご虎舞保存会	広島県	江の川水系漁撈文化研究会 *		榎木白太鼓踊り保存会
宮城県	武鎗鹿踊り保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	鹿児島	三島村八朔踊り保存会
秋田県	鷹巣町綴子下町大太鼓保存会				
	鳥田目番楽保存会				

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
大分県	国東神楽社	京都府	棚倉孫神社瑞鏡御輿保存会	平成8年度助成(続き)	
宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	京都府	久多の山村生活用具保存会*	山形県	西川一座
鹿児島	伊崎田和紙保存会*	大阪府	貝塚三夜音頭継承連絡会	福島県	上三坂のやっつき踊り保存会
	鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会	兵庫県	播州音頭踊り保存連合会	茨城県	あんば囃子保存会
沖縄県	草戸原	奈良県	安堵町なもて踊り保存会	栃木県	宗円獅子舞保存会
	前バル原	和歌山	高芝の獅子舞保存会	群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会
平成11年度助成(48)		鳥取県	福栄伝統芸能保存会	千葉県	仁組獅子舞保存会
北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会*	島根県	民谷神楽団	東京都	ふるさと資料館建設推進委員会*
	穂別町アイヌ民族文化保存会	岡山県	大賀島大智明権現保存会	神奈川	仙石原神楽保存会
青森県	龍神社法霊神楽保存会	広島県	江波漣伝馬保存会	新潟県	赤玉文化財保存会
岩手県	山内神楽保存会	徳島県	高川原勇獅子保存会	富山県	八尾町曳山保存会
宮城県	城生野神楽会	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会		時の会-福野の過去・現在・未来-
秋田県	大沢郷椒沢番楽保存会	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会	福井県	加茂神社上宮の神事
山形県	越沢自治会	福岡県	松会保存会	山梨県	大久保文化財保存会
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会*	佐賀県	飯田面浮立保存会		沢登六角堂切子保存会*
	豊景神社太々神楽保存会	長崎県	若宮稻荷神社 竹ノ芸保存会	長野県	成就神楽囃子保存会
茨城県	日枝神社流鏝馬保存会	熊本県	中窪田神楽保存会		阿島傘の会*
栃木県	升塚獅子舞保存会	大分県	野々河内神楽保存会	岐阜県	串原歌舞伎保存会
群馬県	奥平神社獅子舞保存会	宮崎県	高城町徳満坊あげ馬保存会	愛知県	(財)平野町町政会
埼玉県	深作ささら獅子舞保存会	鹿児島	徳重大太鼓踊り保存会	三重県	一色町能楽保存会
東京都	江戸消防彩粋會		平原利秋氏(ゴッタン・楽器製作)*		深野和紙保存会*
新潟県	杉野沢民俗芸能保存会	沖縄県	泡瀬京太郎保存会	大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会
富山県	福光ちよんがれ保存会		伊波貞子氏(メジャー・織物)*	兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会
石川県	上井田獅子舞保存会	平成10年度助成(47)		奈良県	南都見聞会
福井県	美浜町和田区	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会	鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会
山梨県	中之倉神楽保存会		白符荒馬踊り保存会	島根県	伝承ホーランエンヤ馬漣漣伝馬保存会
長野県	日野多慶子氏(願法寺の絵解き)	岩手県	丹内金津流鹿躍り保存会	岡山県	川上町渡り拍子保存会
三重県	曾原かんこ踊り保存会	行山流鹿踊り保存会		広島県	阿刀神楽保存会
滋賀県	油日神社奴振り太鼓踊り保存会	宮城県	山伏神楽保存会	山口県	陶の腰輪踊り保存会
大阪府	吉志部神社どんじ保存会	秋田県	雄物川町岡本新内伝承会	愛媛県	お簾踊り保存会
兵庫県	大蔵谷獅子舞保存会		五城目町民俗芸能保存連絡協議会	高知県	遼・三番双保存会
奈良県	吉野山青年団御田植神事保存会	山形県	横岡サエの神保存会	福岡県	流鏝馬武徳会
和歌山	小川郷土芸能保存会	群馬県	平田さこの会*	佐賀県	蔵上町民俗芸能保存会
鳥取県	芦津獅子舞保存会		猿田彦神社大和神楽保存会	長崎県	鬼木鐘浮立保存会
島根県	御霊会風流保存会	大宮神社獅子舞保存会		熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会
広島県	幸崎町能地春祭保存会	神奈川	海南神社面神楽保存神楽師会	大分県	天間地区公民館
山口県	数方庭保存会	新潟県	湯川五社神社俗人会	宮崎県	広原神楽保存会
徳島県	阿波木偶箱まわし保存会	石川県	木津豊漁太鼓保存会	鹿児島	大の始式保存会
香川県	さぬき農村歌舞伎祇園座保存会	福井県	若狭町三宅六齋念仏保存会		柏原区芸能保存会
愛媛県	高知獅子保存会		今庄羽根曾踊り保存会	沖縄県	武富旗頭復元実行委員会
	長命講伊勢踊	長野県	内山柱松保存会	平成9年度助成(47)	
高知県	土佐歌舞伎伝承会	岐阜県	若松友志会	北海道	雷公神社神楽会
福岡県	今津人形芝居保存会	三重県	栗谷念仏踊り保存会	青森県	田子神楽保存会
佐賀県	嘉瀬之浦獅子浮立保存会	滋賀県	老杉神社頭屋行事保存会	岩手県	行山流都鳥鹿踊り保存会
	森鉦浮立保存会	京都府	伊根町立石区	宮城県	嵯峨立神楽保存会
長崎県	西大村浮立保存会		久多の山村生活用具保存会*	秋田県	森岳歌舞伎保存会
熊本県	樺木神楽保存会	大阪府	野間出野秋祭り保存会	山形県	小田島田植踊り保存会
	高沢組太鼓踊り保存会	兵庫県	多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ	福島県	北部先囃子若龍会
大分県	五馬本村楽保存会	奈良県	祭文音頭保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会
宮崎県	尾八重神楽保存会	和歌山	木本八幡宮の御田祭保存会	群馬県	沼須人形芝居保存会あけぼの座
鹿児島	久留平氏(太鼓製作)*	鳥取県	円通寺人形芝居保存会	千葉県	野田津久舞保存会
	津貫中間豊祭太鼓踊り保存会	島根県	出雲大社神代神楽波積支部波積神楽団	神奈川	宮城野獅子舞保存会
	平出水太鼓踊り保存会		今田町内会	新潟県	瞽女唄ネットワーク
沖縄県	佐敷町津波古獅子蹴跳保存会*	岡山県	横野和紙工業協同組合*		越後弥彦手仕事倶楽部*
	保栄茂自治会	広島県	比和町郷土芸能振興会	富山県	八尾町曳山保存会
平成12年度助成(49)		徳島県	つるぎ町天の岩戸神楽保存会	石川県	小松市歌舞伎愛好会
北海道	掛潤奴保存会	香川県	香翠座デゴヰ芝居保存会	福井県	和久里壬生狂言保存会
青森県	目名神楽会	愛媛県	弓削雨乞踊り保存会	長野県	仁科神明宮神楽保存会
岩手県	上郷し踊り保存会	高知県	西畑人形芝居保存会	岐阜県	新楽舎獅子舞保存会
	塚沢早池峰神楽保存会	福岡県	鐘崎盆踊り振興会	静岡県	島田帯祭保存会
宮城県	和渕法印神楽保存会	佐賀県	東真手野舞浮立保存会	愛知県	古出来町神社奉賛会
秋田県	秋田市太平山谷番楽保存会		嬉野町温泉区面浮立保存会	三重県	長太鯨船保存会
山形県	沢渡獅子舞保存会	長崎県	黒丸踊り保存会		なすび団扇継承保存会*
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会*	熊本県	目丸棒踊り保存会		深野和紙保存会*
	八槻都々古別神社楽人會		本町虫追い太鼓を考える会	滋賀県	綿向神社雅楽「楽人座」

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
長崎県	滑石竜踊保存会	大阪府	樫井西青年団	平成12年度助成(続き)	
熊本県	菜ノ花会*	兵庫県	宗教法人 廣峯神社	茨城県	西金砂神社田楽舞保存会
大分県	九州相良古代踊り下免田保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	群馬県	平出歌舞伎保存会
宮崎県	佐伯市字目酒利獅子保存会	和歌山	熊野速玉大社祭事保存会	埼玉県	日進餅つき踊り保存会
鹿児島	下且祇園囃子保存会こども祇園囃子	鳥取県	江波三番叟保存会	神奈川県	NPO法人小田原鋳物研究所*
沖縄県	行藤町白太鼓踊り保存会	島根県	都神楽団	新潟県	城腰花笠踊保存会
	六日町ヨイマカ保存会	岡山県	地域伝統工芸がませごの会*	富山県	岩瀬まだら保存会
	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	広島県	神根神社獅子舞保存会	山梨県	八朔祭下町屋台保存会
	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*		磐門神楽団	長野県	小菅柱松神事保存会
	大浜青年会	山口県	郷之崎神楽団	愛知県	大治太鼓保存会
	今泊棒術保存会		山崎八幡宮 本山山事保存会		能田徳若万歳保存会
平成15年度助成(35)		徳島県	大俣じょうれい踊り保存会	三重県	ゆうづる会*
北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」	愛媛県	河内口説保存会		大江羯鼓踊保存会
青森県	大川原の火流し保存会		浮羽獅子連中	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
宮城県	山田大名行列組合	福岡県	浮羽町石垣保存実行委員会*	兵庫県	さいれん坊主保存会
秋田県	潟船保存会*	佐賀県	佐賀錦振興協議会*	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
山形県	根子番楽保存会		西神野玄蕃一流浮立保存会	鳥取県	田口水神社奉讃会
群馬県	吹浦田楽保存会		千代田中部小学校 高志狂言保存会	島根県	竹田さいとりさし少年団
千葉県	行田獅子舞保存会	長崎県	大浦区舟グロー保存会	広島県	追神頭打供盛団
神奈川県	パッパカ獅子舞保存会	熊本県	菜ノ花会*	山口県	養山八幡の吹囃子行事保存会
石川県	長谷ささら踊り盆唄保存会		相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会		柳井縞の会*
岐阜県	輪島市本町キリコ奉賛会	大分県	産島八幡宮海を渡る祭礼保存会	徳島県	祝島神舞奉賛会
静岡県	数河獅子保存会	宮崎県	板井迫神楽保存会	香川県	坂州若連中
愛知県	富士宮囃子保存会	鹿児島	虚無僧踊保存会	愛媛県	ひょうげ祭り保存会
三重県	ちんどう祭委員会	沖縄県	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*		野市町立山獅子舞芸術保存会
滋賀県	本郷「かんこ」踊り保存会		津波古獅子蹴跳保存会*	高知県	川名津神楽保存会
京都府	志那中サンヤレ踊り保存会		那覇市首里汀良町獅子舞保存会		一の宮万歳保存会
	二箇上区	平成14年度助成(48)		福岡県	吉木芸能保存会
	阿良須神社練込保存会	北海道	篠路歌舞伎保存会	佐賀県	立岩浮立保存会
兵庫県	魚吹八幡神社武神祭保存会	青森県	入口青年会		馬渡区鉦浮立保存会
奈良県	尾山萬歳保存会	岩手県	彦部郷土芸能保存会		土井丸浮立保存会
和歌山	椎出の鬼の舞保存会	宮城県	板用肩怒剣舞保存会	長崎県	大浦区舟グロー保存会
鳥取県	貴布禰神社獅子舞保存会		河南鹿嶋ばやし保存会		嵯峨島オーモンドー保存会
島根県	見々久神楽保持者会	秋田県	君萱若松神社神楽会	熊本県	福山神楽保存会
広島県	枝の宮田楽団	山形県	東長野ささら保存会	大分県	放生会委員会
徳島県	つるぎ町一宇雨乞い踊り保存会	福島県	南陽市古代織りの伝統を守る会*	宮崎県	北原人形芝居保存会
愛媛県	佐田岬裂織り保存会*	茨城県	白鳥神社太々神楽保存会	鹿児島	伊形花笠踊り保存会
	客天弓祈禱保存会	栃木県	真家みたまおどり保存会	沖縄県	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
高知県	狩山豊年踊保存会	群馬県	上横倉の獅子舞保存会		下小原八月踊保存会
福岡県	求菩提山お田植祭保存会	埼玉県	千本木龍頭神舞保存会		大川青年会
佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会	千葉県	沖内囃子保存会		謝名アヤチ獅子保存会
長崎県	上戸石町芸能保存会	東京都	野田津久舞保存会	平成13年度助成(50)	
熊本県	西安寺神楽保存会	神奈川	手作り絹研究会・多摩織部会*	北海道	ペーパン福島踊り保存会
大分県	大恩文化財愛護少年団	富山県	相模里神楽垣澤社中	青森県	高館駒踊り保存会
宮崎県	唐瀬子供神楽会	福井県	諏訪神社獅子舞保存会	岩手県	小袖漁撈唄保存会
鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会	山梨県	じじぐれ祭保存会		湯屋神楽保存会
沖縄県	いしゃなざら青年会		下市之瀬獅子舞保存会	宮城県	筆甫神楽保存会
平成16年度助成(36)			表門神社神楽保存会	秋田県	八沢木獅子舞保存会
青森県	片岸えんぶり組	長野県	木賊獅子保存会		福米沢送り盆保存会
岩手県	田東剣舞保存会	岐阜県	有道しゃくし保存会*	山形県	八ッ沼大名行列組合
宮城県	廿一田植踊保存会	愛知県	伝承知多木綿つものき*	福島県	両原早乙女踊り保存会
秋田県	黒川番楽保存会		石上げ祭伝承保存会	茨城県	東金砂神社田楽舞保存会
山形県	羽黒山松例祭若者衆	三重県	野口御神楽保存会	栃木県	大沢田太々神楽保存会
福島県	昭和村からむし織後継者	滋賀県	上砥山田楽踊保存会	群馬県	上泉獅子舞保存会
	→育成事業実行委員会*	兵庫県	南光子ども歌舞伎育成会	神奈川県	長安寺六字詰念仏講中
栃木県	尾ざく獅子舞保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	新潟県	二田物部神社神楽舞保存会
群馬県	赤城町古典芸能保存会	和歌山	藤白の獅子舞保存会	福井県	今庄羽根曾踊保存会
千葉県	本納滝之谷獅子舞保存会	島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	長野県	湯原神社式三番保存会
東京都	むさしのばやし保存会	岡山県	白明会*		外倉獅子舞保存会
神奈川県	三増獅子舞保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	岐阜県	高桑太鼓保存会
富山県	宮崎神楽保存会	山口県	徳佐はやしだ保存会	愛知県	金沢歌舞伎
長野県	和田中神社太神楽保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用糞製作)*	三重県	なすび団扇継承保存会*
	上駒沢祭典保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会		「てんてん」保存会
愛知県	向山神楽獅子保存会	佐賀県	戸ヶ里浮立保存会	滋賀県	古高鼓踊り保存会
三重県	水沢お諏訪おどり保存会		祖子分面浮立保存会	京都府	天満神社相撲保存会

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
熊本県	大浦獅子保存会	秋田県	大湯太鼓保存会	平成16年度助成(続き)	
熊本県	柳別府太鼓踊り保存会	福島県	会津万歳安佐野保存会	滋賀県	ずいき祭保存会
大分県	深山流朝地神楽保存会	茨城県	片野排鍋ばやし保存会	京都府	丹後藤布振興会*
宮崎県	郷之原芸能協賛会	栃木県	興野ささら獅子舞保存会	大阪府	大阪太鼓文化研究会*
鹿児島	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会
	如竹踊り保存会	千葉県	万作踊り松戸保存会	鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会
沖縄県	古見民俗芸能保存会	東京都	美山町鯨獅子舞保存会	島根県	須佐神楽保存会
平成20年度助成(40)		神奈川	あつぎひがし座	広島県	小原大元神楽 小原神楽団
北海道	寿都松前神楽保存会	石川県	加賀万歳保存会		南方の万灯保存会
青森県	上十川獅子踊り保存会	福井県	舟寄踊り保存会	香川県	肥土山農村歌舞伎保存会
岩手県	都島田植踊り保存会	愛知県	きねこさ祭保存会	愛媛県	豊茂五ッ鹿踊り保存会
宮城県	日高見浅流部法印神楽保存会	滋賀県	椿神社流鏑馬保存会	高知県	西諸木花取踊り保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*	佐賀県	広瀬浮立保存会
山形県	舟渡獅子踊り保存会	兵庫県	仁色長持保存会	長崎県	太田尾地藏祭師さうめん保存会*
福島県	北萱浜神楽愛好会	和歌山	糸我郷土伝統芸能保存会		戸根浮立保存会
栃木県	下鉢石町自治会	鳥取県	美成地区	熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*
	宝積寺白鬚神社雅楽部	島根県	野石谷伝統芸能保存会		下里臼太鼓踊り保存会
群馬県	椿名神社太々神楽保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会	大分県	荻神社俵楽
埼玉県	脚折雨乞行事保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*	宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	鹿児島	入来神舞保存会
東京都	田無ばやし保存会	福岡県	豊前感応楽保存会	沖縄県	新川青年会
神奈川	海南神社行道面保存会	佐賀県	西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会	平成17年度助成(37)	
新潟県	他門神楽保存会	長崎県	平島ナーマイド一保存会	青森県	青森ねぶた正調囃子保存会
	半田神社神楽舞保存会	熊本県	ききつ船津ペーロン保存会	岩手県	大ヶ生山伏神楽保存会
富山県	八口諏訪社獅子舞保存会		竹迫観音祭保存会下町分会		大船渡喜多会
山梨県	大垣外獅子舞保存会		栖本町郷土芸能保存会	宮城県	新城の田植踊り保存会
岐阜県	美濃歌舞伎保存会	大分県	保戸島伝統芸能保存会	秋田県	赤田獅子舞保存会
静岡県	掛塚屋台囃子保存会	宮崎県	熊襲踊り保存会	山形県	蔵岡延年の舞保存会
愛知県	六ツ師獅子舞保存会		細野一区輪太鼓踊り保存会	福島県	館早乙女踊り保存会
三重県	生桑町長松神社鏡餅奉納会	鹿児島	小島棒踊り保存会		木目沢三匹獅子保存会
	曾原かんこ踊り保存会	沖縄県	中間棒踊り保存会	茨城県	日立郷土芸能保存会
滋賀県	篠田の花火保存会*	平成19年度助成(39)		栃木県	三本木獅子舞保存会
大阪府	だいがく保存会	北海道	寿都松前神楽保存会	埼玉県	辻の獅子舞保存会
奈良県	川西町保田自治会	青森県	大平大神楽	千葉県	岩沼の獅子舞保存会
和歌山	ねんねこ祭保存会	岩手県	法領田獅子踊り保存会		中野獅子保存会
島根県	岩野原獅子舞保存会		羽山神楽保存会	東京都	幸田羯鼓舞保存会
岡山県	福石神楽団	宮城県	浪板虎舞保存会	神奈川	田村ばやし保存会
広島県	名字獅子舞保存会	秋田県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会	福井県	蔵生区自治会
	五日市芸能保存会	山形県	幸生区・三地区契約会	山梨県	高尾山穂見神社神楽保存会
徳島県	後山からくり襖絵保存会	福島県	浮島神社太々神楽保存会	長野県	熊野神社祭囃子保存会
香川県	流水灌頂法要保存会		糠塚三匹獅子保存会		桐原獅子舞保存会
福岡県	下町獅子山保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会	愛知県	牧野鳴念仏踊り保存会
長崎県	上原浮立保存会		山本政史氏(日光下駄製作)*	三重県	白塚町通夜講
熊本県	川島神楽連	群馬県	貝沢西組獅子舞保存会	滋賀県	渋川花踊り保存会
	都呂々獅子舞太鼓踊り保存会	埼玉県	下日出谷餅搗踊り保存会	兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会
宮崎県	入下神楽保存会	千葉県	八幡神社の獅子舞保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
鹿児島	前野田植唄民謡保存会	東京都	星竹囃子連	和歌山	春駒保存会
沖縄県	船浮民俗芸能保存会	新潟県	内島見神楽保存会	島根県	矢上田植ばやし保存会
平成21年度助成(42)		石川県	二所宮獅子舞保存会	広島県	羽佐竹神楽団後援会
北海道	大船南部神楽保存会	福井県	長畝日向神楽保存会	福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会
青森県	乳井獅子保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会	佐賀県	川内浮立保存会
岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会	長野県	山新田太神楽保存育成会		三部区
	村崎野大乘神楽保存会	愛知県	名古屋港筏師一本乗り保存会	長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊り保存会
宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会	三重県	矢浜神楽保存会	熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会
秋田県	梅内郷土芸能保存会	滋賀県	大原学区豊年太鼓踊り保存会	大分県	田原獅子保存会
福島県	渡戸高野・鯨組	京都府	田山花踊り保存会	宮崎県	川内棒踊り保存会
栃木県	文挾流手岡獅子舞講中	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会	鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会
群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会	岡山県	栗井春日歌舞伎保存会	沖縄県	天願獅子舞保存会
埼玉県	北袋囃子連	広島県	長尾神社湯立神楽保存会	平成18年度助成(37)	
千葉県	不入斗同志会	山口県	藤生神楽保存会	北海道	元更別大国神社石見神楽保存会
東京都	代々木囃子保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会	青森県	斗内獅子舞保存会
	山田獅子舞保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会	岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会
神奈川	小向獅子舞保存会	愛媛県	かぶと踊り保存会		生出神楽保存会
新潟県	羽森神社神楽舞保存会	高知県	東洋町流鏑馬保存協議会	宮城県	大曲法印神楽保存会
富山県	栢山獅子舞保存会				

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成21年度助成(続き)	
栃木県	鹿島神社郷土芸能保存会	熊本県	栖本町郷土芸能保存会	石川県	門前とどろ保存会
群馬県	天命鑄物伝承保存会*	大分県	新町自治会	長野県	町区太々神楽実行委員会
埼玉県	白瀧神社太々神楽保存会	宮崎県	高木郷土芸能保存会		高岡道祖神日待占祭保存会
千葉県	下小坂獅子舞保存会		都城市高城町桜木あげ馬保存会	静岡県	笹間神楽保存会
東京都	飯岡ばやし 日の出会	沖縄県	鳩間民俗芸能保存会	愛知県	日下部太鼓保存会
新潟県	高井戸囃子保存会	平成23年度助成(42)		三重県	大江羯鼓踊保存会
	大谷地和紙保存会*	北海道	糠内獅子舞保存会	滋賀県	中堀町自治会孔明祈水山保存会
	蔵王稚児舞の会	青森県	同心町熊野神社神楽連	京都府	質美下村区文化財保存委員会
富山県	加茂神社神事伝承会	岩手県	外山神楽保存会	兵庫県	日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会
石川県	向粟崎悪魔払い保存会	宮城県	熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会		福住下自治会
福井県	多賀区獅子保存会	秋田県	福嶋サイサイ囃子保存会	奈良県	八島町六斎念仏講
山梨県	中之倉神楽保存会	山形県	若宮八幡神社太々神楽保存会	和歌山	南道奴行列保存会
長野県	湯原神社式三番保存会	福島県	杉沢愛宕神社三匹獅子保存会	鳥取県	江波三番叢保存会
岐阜県	河鹿神社賀喜踊保存会	群馬県	美茂呂町屋台囃子保存会	島根県	八神楽団
愛知県	万足平を考える会*	千葉県	白久串人形芝居保存会		亀山将氏(足踏み水車の修復)*
	村木神社おまんこと祭り保存会	東京都	旅名自治会	岡山県	宇甘神社獅子舞保存会
三重県	戸木東組かんこ踊り保存会		鹿島流獅子舞引田保存会	広島県	富士神楽団
滋賀県	小野町太鼓踊保存会		諏訪神社崇敬会	徳島県	赤松煙火保存会*
大阪府	深江菅細工保存会*	神奈川	川名屋台ばやし保存会	香川県	和田雨乞踊保存会
兵庫県	西町獅子舞保存会	新潟県	天神林天満宮伶人会	福岡県	上久原白山宮獅子舞保存会
奈良県	田原地区伝統芸能保存会	富山県	田島自治会	佐賀県	自然と暮らしを考える研究会*
和歌山	堅田祭保存会	福井県	宇波西神社神事芸能保存会	長崎県	権常寺浮立保存会
岡山県	大浦神社	山梨県	山梨岡神社舞子	熊本県	竹迫観音祭保存会
広島県	御調八幡宮花の踊り保存会	長野県	NPO法人小谷山村留学育成会*		黒辺田野白太鼓踊保存会
山口県	上野神楽保存会	岐阜県	小野八幡神社祭礼運営委員会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
徳島県	森藤獅子舞保存会	静岡県	東光寺猿舞保存会	沖縄県	黒島民俗芸能保存会
香川県	安田おどり保存会	愛知県	中之切奉賛会	平成22年度助成(42)	
愛媛県	井原圭子氏(和紙用笥製作)*	三重県	立神自治会	青森県	二ツ森神楽芸能保存会
高知県	泉川長者花鳥踊り保存会	京都府	周枳民芸保存会三番叢組	岩手県	門中組振興会
福岡県	植木の三申踊保存会	大阪府	野崎第一地車保存会	宮城県	佐藤明彦氏(堤人形製作)*
佐賀県	鳥海浮立保存会	兵庫県	淡路人形浄瑠璃青年研究会	秋田県	冬師番楽保存会
長崎県	森山本村郷土芸能保存会		神波多神社獅子神楽保存会	山形県	西袋獅子踊保存会
熊本県	東浦白太鼓踊り保存会	島根県	出雲國奏楽錬成会	福島県	菅波伝統文化継承会
大分県	北原人形芝居保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	茨城県	あおき囃子連
宮崎県	不土野芸能保存会	山口県	お手廻り保存会	栃木県	河井獅子舞保存会
鹿児島	土踊保存会	徳島県	大谷郷土文化保存会	群馬県	木崎音頭保存会
	童子八月踊り研究会	香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会	埼玉県	三若会
沖縄県	豊見城市 高安自治会	愛媛県	佐方獅子保存会		柏合獅子舞保存会
平成25年度助成(42)		高知県	大利太刀踊保存会	千葉県	熊野神社神楽保存会
青森県	上川目神楽保存会	福岡県	ぜんでこ踊り保存会		上本郷獅子講中
岩手県	大石虎舞組		平八月祭り保存会	東京都	榎立踊り保存会
	二子築館神楽保存会	佐賀県	南片白区浮立保存会	新潟県	川根谷内獅子保存会
宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会	長崎県	馬場本浮立保存会	富山県	福島青年親交会
秋田県	釜ヶ台番楽保存会	熊本県	小屋川内獅子舞保存会	石川県	小松尾小屋鶯保存会
山形県	中獅子踊り保存会	大分県	重岡岩戸神楽保存会	長野県	玉依比賣命神社
福島県	和田神社太々神楽保存会	宮崎県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会	岐阜県	加納まちづくり会(和傘製作)*
茨城県	久保田のおはやし保存会	鹿児島	西上太鼓踊り保存会	静岡県	巖室神社鎮火祭保存会
栃木県	万町一丁目東自治会	沖縄県	伊平屋村青年団協議会	愛知県	有松天満社文嶺講
群馬県	新田赤堀獅子舞保存会	平成24年度助成(54)		三重県	牛蒡祭保存会
埼玉県	北本宿囃子連	青森県	五戸えんぶり組	滋賀県	志賀神社氏子総代
	神明社神楽保存会	岩手県	門中組振興会	大阪府	三ツ松明土行念仏保存会
千葉県	関下囃子		片岸虎舞保存会	兵庫県	北野まつり保存会
東京都	檜原村春日神社御餉神事保存会	宮城県	山岸さんさ踊り保存会	奈良県	惣谷狂言保存会
新潟県	長沢祭典実行委員会		小室契約会	鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会
富山県	打出青壮年部		浪板虎舞保存会	島根県	御霊会風流保存会
石川県	串町町内会		磯草虎舞保存会	岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室
福井県	間見神社例祭神事保存会		大谷大漁唄い込み保存会	広島県	おおたけ手すき和紙保存会*
山梨県	新町お囃子保存会		長塩谷南部神楽保存会	山口県	山代白羽神楽保存会
岐阜県	NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会*		大室南部神楽保存会	徳島県	橘だんじり祭り獅子組
愛知県	愛知・半田・板山万歳保存会		相川南部神楽保存会	愛媛県	北方獅子舞保存会
三重県	東玉垣唐人踊り保存会	秋田県	有限会社仙台堆朱製作所*	高知県	シットロト踊り保存会
滋賀県	鍋冠祭保存会	山形県	秋田万歳保存会	福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会
大阪府	御領地車保存会	福島県	大谷神楽保存会	佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会
兵庫県	羽淵獅子舞保存会	福島県	川原田神楽保存会	長崎県	平島盆踊り保存会
奈良県	吐山太鼓踊り保存会		新館太々神楽保存会		

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(6)

*印は民俗技術

助成先 平成28年度助成(続き)		助成先 平成27年度助成(44)		助成先 平成25年度助成(続き)	
長野県	影山区	北海道	遠矢神楽舞保存会	和歌山	三船踊り保存会
愛知県	白山神社奉納雅楽舞踊保存会	青森県	甲地神楽保存会	島根県	美保神社神事奉賛会
三重県	牛蒡祭保存会	岩手県	小通芸能保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会
滋賀県	金居原太鼓踊り保存会	宮城県	槻沢芸能保存会	広島県	錦城神楽団
京都府	福知山市佛性寺自治会	秋田県	三輪流神楽保存会	山口県	滝坂神楽舞保存会
兵庫県	熊野神社浄舞保存会	山形県	坂之下番楽保存会	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会
奈良県	龍口獅子舞保存会	茨城県	綱木獅子踊り保存会	愛媛県	金栄会
和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」	栃木県	古内大杉ばやし保存会	高知県	四ツ白武士踊り会
鳥取県	大和佐美命神社獅子舞保存会	埼玉県	天下一関白流西組獅子舞保存会	福岡県	安武楽保存会
島根県	野石谷伝統芸能保存会	千葉県	久那獅子舞保存会		豊前小倉織研究会*
広島県	下板木コミュニティー	東京都	金鑽神楽永田組	佐賀県	執行分浮立保存会
山口県	むつみ神楽保存会		浄土宗西福寺	長崎県	長崎明清楽保存会
徳島県	東辻郷獅子舞牡丹連保存会	神奈川県	多摩めかしの会*	熊本県	市房山神宮里宮神社
愛媛県	NPO法人姫だるまプロジェクト*	神奈川	根府川寺山神社鹿島踊保存会		長坂なれなれなすび踊り保存会
高知県	日高村太刀踊保存会	新潟県	昔かたり春よこい	宮崎県	中野神社神楽保存会
福岡県	元岡祇園ばやし保存会	富山県	広野自治会	鹿児島	黒潮太鼓
佐賀県	宮野浮立保存会	石川県	神子原壮年団	平成26年度助成(44)	
長崎県	横尾だんじり保存会	長野県	日和山神社芸能保存会	北海道	美和権現獅子舞保存会
熊本県	東方組太鼓踊り保存会	岐阜県	綾野第三自治会小獅子軸保存会	青森県	目名神楽会
大分県	岡倉神楽保存会	愛知県	知立神楽保存会	岩手県	の組菱和会
宮崎県	酒谷地区むらおこし推進協議会	三重県	若宮八幡神社北村石取り祭車保存会	宮城県	白浜自治会(旧白浜契約会)
鹿児島	重久神事神舞保存会	滋賀県	大野木豊年太鼓踊保存会	山形県	舟渡獅子踊り保存会
沖縄県	友寄獅子舞棒術保存会	京都府	玉田神社宮座「森座」	福島県	松岡若連
	崎原克友氏(八重山上布織物技術)*	大阪府	中垣内地車保存会	栃木県	日光囃子保存会
平成29年度助成(43)		兵庫県	土師獅子舞保存会	群馬県	津久田人形操作伝承委員会
北海道	有明獅子舞有志の会	奈良県	篠原おどり保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会
青森県	国吉獅子踊保存会	和歌山	亀の川念仏踊り保存会		赤沼民俗文化財保存会
岩手県	篠木神楽保存会	鳥取県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会	千葉県	久長元耕地獅子舞保存会
岩手県	平泉流細野念仏剣舞	島根県	三谷神社獅子舞保存会	東京都	道庭獅子連保存会
秋田県	脇本山車どんど保存会	広島県	山根神楽団	東京都	八幡囃子保存会
秋田県	亀田大神楽神楽講	山口県	おおたけ手すき和紙保存会*	神奈川	台祭囃子保存会
山形県	岩根沢大々神楽保存会	徳島県	切山歌舞伎保存会	新潟県	水沢伝統芸能保存会
福島県	荒獅子保存会	愛媛県	池谷郷土芸能保存会	富山県	加茂神社神事伝承会
栃木県	伊王野下町祭保存会	福岡県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	石川県	内灘町宮坂区
埼玉県	東不動院野神楽保存会	佐賀県	永井獅子保存会	福井県	鈴鹿区太鼓保存会
埼玉県	古久喜獅子舞保存会	長崎県	浮立・荒踊り保存会	山梨県	一之瀬高橋春駒保存会
千葉県	熊野神社神楽保存会	熊本県	命婦の舞保存会	長野県	根神社式三番叟保存会
東京都	清水ばやし保存会		仲町の茶わん鉢保存会	岐阜県	綾野第4自治会綾野祭軸舞々軸保存会
神奈川	野比中村虎踊り保存会	大分県	宇土市轟泉簡易水道組合*	愛知県	上名和祭りばやし保存会
新潟県	浦瀬町奏楽保存会	宮崎県	堅浦古典芸能保存会		東大高祭禮保存会
石川県	柴垣壮年団	鹿児島	神下俵踊り保存会	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
福井県	津島区神楽保存会	沖縄県	目手久民謡保存会	京都府	出雲風流花踊り保存会
長野県	小市神楽囃子保存会		仲西獅子舞保存会		NPO法人丹波漆*
岐阜県	関市獅子舞保存会	平成28年度助成(43)		大阪府	延喜式内社 岐尼神社
静岡県	江浦伝統文化保存会	北海道	寿都松前神楽保存会	和歌山	池田秀孝氏(紀州高野組子細工技術)*
岐阜県	岐阜和傘プロジェクト*	青森県	入口青年会	鳥取県	服部神社獅子舞保存会
愛知県	出川町棒ノ手保存会		嘉瀬奴踊り保存会	島根県	玉造調理師会
三重県	大淀東区自治会	岩手県	板沢しし踊り保存会	広島県	山波神楽団
滋賀県	井之口太鼓踊保存会	宮城県	赤谷神楽保存会	山口県	住吉神社お船謡保存会
大阪府	大東市中垣内自治会	秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	徳島県	鳴門大風保存会
和歌山	太地町民芸保存会寄水青年同志会	山形県	清川獅子神楽実行部会	香川県	石切唄保存会
鳥取県	波津神社獅子舞保存会	福島県	太田川梅若歌念仏踊保存会	愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会
島根県	深野神楽こども教室	栃木県	梅田三匹獅子舞保存会	高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会
岡山県	仕組踊保存会 城扇	群馬県	大沢獅子舞保存会	福岡県	柳川市立柳河小学校 →特別クラブ「子どもどろつくどん」
広島県	上河内獅子舞保存会	埼玉県	鷲宮太々神楽保存会	佐賀県	川上鉦浮立保存会
山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	東京都	栗生田囃子会	長崎県	東上面浮立保存会
徳島県	池谷神踊り保存会	神奈川県	新久はやし保存会	熊本県	熊本新町獅子保存会
香川県	賀茂神社長床神事保存会	千葉県	家之子獅子連郷土芸能保存会	宮崎県	細江神楽保存会
福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	東京都	森山はやし保存会		風田製糖組合*
佐賀県	納富分浮立保存会	神奈川	田村ばやし保存会	鹿児島	花尾太鼓踊り保存会
長崎県	東浜町一組女相撲保存会	新潟県	小川連中	沖縄県	勢理客区
熊本県	菊池市下出田区、植古閑区	富山県	岩瀬白山町曳山愛好会		
大分県	三輪流白杵神楽保存会	福井県	日吉青年会		
宮崎県	麓輪太鼓踊り保存会				

平成3年～29年 都道府県別伝統文化助成先一覧(7) *印は民俗技術

助成先	
平成29年度助成(続き)	
鹿児島県	ナゴシドン実行委員会
鹿児島県	ヨンシ-踊保存会
沖縄県	新里民俗芸能保存会
沖縄県	伊是名区
累計助成件数 1,137件	

